



①じゃじゃ〜じゃ…じゃあ〜ん♪「あれえ？うまくいかないなあ。おなじみのベートーベン「運命」の指揮を体験しました。
②オーケストラの伴奏で校歌斉唱。指揮を振る先生もドキドキです。
③楽団の皆さんにお礼の花束贈呈。コンサートは、たくさんの笑顔に包まれました。

田園に響くふれあい音楽祭は7月4日、大川目町まちづくり協議会（山口健一会長）が主催して大川目小学校で開催されました。市が地域のまちづくり活動のために設置した「地域コミュニティ振興事業」の補助を受けて開催しました。山口会長は「生の音楽を通して、大川目の文化への誇りを持つた社会人に育ってほしい」と呼び掛けます。

東京多摩交響楽団は総勢34人。地方での手作り感あふれるコンサートを全国各地で開催しています。幕開けからおなじみの曲が流れた後、大川目小中学校の児童生徒がそれぞれ、オーケストラの伴奏で校歌を合唱しました。

指揮体験コーナーでは、「ジャジャジャジャー」という始まりが有名なベートーベンの「運命交響曲」の指揮を、5人の児童生徒が体験。戸惑いながら振る指揮棒に合せておかしな演奏がされると、会場からは大きな笑いが起こっていました。オーケストラにはちよつと狭い大川目小学校の体育館。その分、演奏者との距離が近く、触れ合いを楽しめるのが良いところです。ちっちゃいまちの団体が企画したでかくて触れ合いあふれる演奏会は見事、大成功を収めたのでした。



田園に響くふれあい音楽祭〜大川目町まちづくり協議会
—地域コミュニティ振興事業—

ココロに届いた
交響曲

人口約3,000人、1,000世帯にも満たない大川目町にオーケストラがやってきた！大川目町まちづくり協議会では7月4日、市の地域コミュニティ振興事業を活用して「田園に響くふれあい音楽祭」を大川目小学校で開催しました。東京多摩交響楽団の一流の演奏を聴こうと町内の小中学生、保護者、地域の方々など約400人で会場はあっという間にいっぱい！ちっちゃいまちのでっかい演奏会に会場中が興奮に包まれました！

コンサートを終えて〜 Interview



みずなし ほのか
水無 保乃香さん
(大川目小6年)

オーケストラの音楽はすごかったです。こんなところで聴いていいのかな…ってちょっと思いました。ルロイ・アンダーソン（アメリカの作曲家）の名曲集がわたしには特に心に残りました。ありがとうございました！



ありの としり
新田 敏則さん
(東京多摩交響楽団 指揮者)

(演奏を通じて) 大川目の子どもたちは、とても素直だと感じました。指揮体験でも、とても動きのある指揮が振れていましたよ。今後も、自らの音楽技術を磨き、音楽の楽しさを伝えていきたいですね。



おくら としゆき
小倉 利之さん
(大川目町まちづくり協議会事務局長)

今回の企画のきっかけは、こんな小さな町にもオーケストラを呼べるんだっていうのを証明したかったから。子どもたちには、本物の文化や音楽に触れて、大人になったときの糧にしてもらいたいですね。

地域コミュニティ振興事業とは？

元気なまちづくり活動に対して、市が補助金を交付する制度です。町内会、NPO、ボランティア団体など、まちづくりに取り組みたいという団体が対象です。補助率は、ハード事業（施設や備品を整備すること）は1/2、ソフト事業（今回のコンサートのようなイベント開催など）は2/3です。事業の前に計画書の提出が必要になります。市で審査して交付決定の可否を内示します。

計画書提出の前に、まずはお気軽にご相談ください！問い合わせは、まちづくり振興課（内線252）へ。